

＝ 大阪自然教室の概略 ＝

運 営 1973年8月、自然保護団体で活動していた20才前後の若者たちにより設立、以来38年間活動。リーダーによる自主的・自発的・自立的な活動であり、リーダーの自己責任により運営している。

- ・専従を置かず、毎週木曜日夜のリーダー会議で決める。あえてNPO法人とはしていない。
- ・財政も含め、行政や特定の団体など、どこからの指示や援助を受けないでやっている。

ただし、ここ10年は「子どもゆめ基金」(文部科学省の外郭団体)から毎年250万円前後、他にも民間の財団からの助成をうけ、合計で250～350万程度の助成を受けている。

対 象 小学一年生～中学三年生を対象とする年間会員制度(4月1日より、翌年の3月31日まで)

- ・こんなことをしているのを親や先生に見られたら怒られるだろうな、というやんちゃな時間と空間を子どもたちと共有する。親が一緒だと親の目を意識してしまうため、子どものみを対象。
- ・2012年度から募集対象を小一まで拡大した。(これまでは小二～中三)
- ・親が(幼児も含む)参加できる企画は、例会の親班や日帰りの企画(ムササビを観る会など)

会員数 120人

- ・おおむね、小一10人、小二～小五20人、小六15人、中学15人が目安。
- ・以前は4～5年周期で160名前後で増減を繰り返していたが、2002年の178名から数年減り続けたまま、ここ2・3年は100名を割り込んでいる。
- ・募集はほとんどロコミ。新聞などに掲載した時、一気に問い合わせが来るので、このところしていないが、会員数がここ5年ほど減り続けているので、2012年度は新聞掲載を検討中。

会 費 年会費 一人 6,000円

- ・年会費は保険代(スポーツ安全協会の年間の保険)・会報(みどりのしんぶん)印刷費と郵送費、共同で借りている事務所分担金、リーダーの研修費などにあてている。

会 報 みどりのしんぶん 毎月発行(例会の9日前の金曜日に発送:2012年3月で446号を達成!)

- ・例会の連絡・子どもが参加した例会や特別教室の感想・自然の情報など、手書き8p～28p

例 会 毎月1回、日曜日に実施(第○週とは決まっていない)

- ・四月例会第三日曜日、7月例会第二日曜日、8月例会最終日曜日。4週ないし3週あけるので、大阪府下の自然の残っている所へ(大阪周辺部):学年ごとに、リーダー3～5人と別行動。
- ・「箕面」は年4回(季節を体感)「天王山」「飯盛山」「多奈川(自然海岸)」「淀川三川合流点」など
- ・いずれも、集合場所ではたくさん人がいても、自然教室だけの秘密の場所へ。

集合・解散は、例会実施の最寄りの駅(「箕面」:阪急・箕面駅、「飯盛山」:JR・四条畷駅など)

- ・遠い場合、「三川合流点」の時は京阪・京橋駅、「多奈川」の時は南海・ナンバ駅。

事前に参加するかどうかの連絡はいらぬ。参加できる時に集合場所に来ればよい。

- ・おおよその数の予測をつけ、子ども3・4人にリーダー1人付くように、皆が都合をつけている。

服装は、藪こきなどもするので、夏でも必ず長袖・長ズボン。帽子を着用。

「例会」では「親班」がある。送り迎えの間、せっかくなので親も自然を楽しみたいという声があり。

- ・世話人さんを中心とした自主的なもの、中年のリーダーが時間の都合がつけば同行している。
- ・幼児(自分で山の中を歩ける)も参加している。その日の参加者によりコースを決める。
- ・会員の子どもと完全に別行動なのでお弁当など別に用意。子どもと途中出会わないこともある。

特別 長期休暇の夏休み・冬休み・春休みなどに宿泊を伴う企画と他に日帰りの企画。

教室 宿泊を伴う企画は事前に申し込む(参加者把握のため)、日帰りの企画は集合場所へ(例会と同じ)。

宿泊の企画は、3・4年の幅を持たせた異年齢集団による男女混合の縦割りが基本。

- ・異年齢といっても、最近よく見られる小一～中三までを一緒にするような無茶なものでない。
- ・今度はこれにチャレンジしようと、年令に応じた自然体験をステップアップしていく。

夏休み・春休み・冬休みの企画は「募集要項」を別刷りする。参加費は別途計算して設定する。

| | | | | |
|----------------------------|----------------------|---------|-------|----------|
| 夏休み | 智頭自然教室・野原班（鳥取県智頭町那岐） | 小一～小五対象 | 4泊5日 | |
| | 生水の郷自然教室（滋賀県高島市針江） | 小三～小五対象 | 3泊4日 | |
| | 祝島自然教室（山口県上関町祝島） | 小三～小六対象 | 5泊6日 | |
| | 智頭自然教室・野原班（鳥取県智頭町山郷） | 小五～中三対象 | 4泊5日 | |
| | 四万十自然教室（高知県四万十市口屋内） | 小六～中三対象 | 5泊6日 | （12年度は綻） |
| 冬休み | 智頭自然教室（鳥取県智頭町那岐） | 小一～小六対象 | 2泊3日 | |
| | 不自由教室（大阪府箕面市落合谷） | 中一～中三対象 | 2泊3日 | |
| 春休み | 智頭自然教室（鳥取県智頭町那岐） | 小一～小六対象 | 3泊4日 | |
| | ぶらり旅（各地に小グループで2企画） | 小六～中三対象 | 5泊～7泊 | |
| 他に「生水の郷」で藻刈り（5月）・ヨシ刈り（12月） | | 小五～中三対象 | 1泊2日 | を行う。 |

日帰りの企画（ツバメを観る会・ムササビを観る会）は親も参加できる。

過去、小二～小六対象の雪中ハイク（1月：1泊）、中学生対象の登山教室（秋：2泊）等も行った

手続き 返信用ハガキを事務所に返送し、お送りする振り込み用紙で郵便局で会費を振り込んでいただく。

- ・フルタイムの専従はいないので、連絡は事務所（06-6372-1561 木曜日夜のみ）か西村まで（携帯090-1149-4326 または 自宅072-627-5109）
- ・会員手続きは2月に開始、人数が少なくとも5月末まで（人数が多いと4月で打ち切る）。
- ・体験で例会参加も可（2月～5月）、保険はかかっていることを了承のうえ事前連絡が必要。

* 大阪自然教室が強くこだわっているのは・・・

異年令の子どもの群れによる成長。「現代の若者宿」であること意識し、年令に応じた通過儀礼として自然体験をステップアップしていくように企画している。最初はゴマメとして参加、年令に応じて異年令の集団の中で役割を果たしていくようにしている。また、少し年上の子を「自分もあぁなりたいという」成長のモデルになるように、特に、高校生のサブリーダーの役割を重視している。

* 大阪自然教室のリーダーは・・・

一番力を注いできたのは、難しいといわれる思春期の中学生対象の企画。中学生に対して小規模の企画を繰り返してきた。その結果、高校生になるとサブリーダー、今度は面倒を見る立場になって、小さな子の先頭に立って引っ張る。さらに、学生・社会人となって全体を切り盛りすることが続いている。会員から育ったリーダーが7・8割を占める。他にも、学生や社会人から参加したリーダーもいる。親がリーダーになることもある（子どもとは別の班）。子どもは馴染まず会員をやめたのに、親はそのまま残ったこともあった。

* よく、「お友だちがいないので心配」と聞かれますが・・・

どの子がきても、その子の居場所があると感じてもらえるように心がけている。（ただし、かなり個性的な団体なので、合う合わないがある）集団で来ている子は、確かにハイテンションでやっているが、結局、地域の友だち関係から脱却できず、友だちが行く・行かないとかに左右され、大阪自然教室が体験して欲しいと願っている、異年令の子どもの群れの良さを味あわないまま会員をやめていく。最初に知った者がいないと不安であるから、まずリーダーとしっかり結びつきができる。子どもたち同士の交流は、参加を重ねて、体験を共有してから他の子どもたちの関係が徐々に広がる。どちらかという人間関係の作り方の苦手な子どもの方が残り、会員時代（～中三）が終わっても、リーダーとして活動している。

* 「低学年から積み重ねなければ意味がないのか」というと・・・

最近では小五・六、さらに中学生の新入会員もあり、結構そのまま残ることが多い。学校や地域での子どもを取り巻く環境に息苦しさを感じている思春期の子の方が、大阪自然教室の良さを敏感に感じてくれるからでしょう。その子どもたちの方が熱心かもしれません。

* 大阪市・大阪府内でないといけないのか・・・

大阪府内が多いが、遠くは兵庫県龍野市、京都府宇治市からも毎月例会に参加している会員もいる。要は、本人が大阪自然教室をホッとできる、かけがえのない自分の居場所と感じたかであり、距離には関係がない。クラブが忙しとか、遠いから例会には参加できないが、特別教室には必ず参加している会員もいる。

また、夏休みと春休みの特別教室では、会員外の参加を募集することもある。